

# 第1学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）〇校時  
 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇  
 対 象 第〇学年〇組 〇〇名  
 授業者 〇〇中学校  
 教諭 〇〇 〇〇  
 場 所 〇階 〇年〇組教室

## 1 単元名 社会科

### 第2章 中世の日本 2 産業の発達と人びとの生活

#### 農村のくらしと人びとの団結

教科書『新中学校 歴史 改訂版 日本の歴史と世界』清水書院P. 74～75

資料集『歴史資料 東京都版』帝国書院

## 2 単元の指導目標

- ◆ 農業などの諸産業が発達し、機内と中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解する。
- ◆ 武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について気付く。

## 3 大項目の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
単元の 評価規準	◆武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究することができる。	◆歴史の流れ、社会の変動や東アジア世界とのかかわりから、時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。	◆武家政権の成立・展開や産業の発達、文化を、絵画、文献などの資料を活用して追究し、表現することができる。	◆武家政権の成立から全国支配への歴史的流れと中世社会の特色を、東アジア世界とのかかわりを背景に理解し、その知識を身に付けている。
学習活動に 即した具体的 な評価規準	②武家政権の成立について関心を高め、意欲的に追求することができる。	①古代の政治・社会・文化・外交などに注目し、時代の特色をまとめ考察することができる。 ②将軍と御家人との主従関係に注目し、封建制度などの武家政治の特色を考察できる。 ③承久の乱の原因と結果を幕府の支配の拡大を考察することができる。	①東アジア世界と深いかかわりを持った古代の社会の変化を自分の言葉で表現できる。	③執権政治など鎌倉幕府の政治の展開についての基本的な知識を身につける。

	<p>⑥モンゴル帝国の拡大と元寇を関連に関心を高め、意欲的に追究することができる。</p> <p>⑦幕府の滅亡とその後の展開を、意欲的に追究することができる。</p> <p>⑨東アジア世界の変化について、意欲的に追究することができる。</p>	<p>⑤ヨーロッパの封建制度を参考に、日本の封建制度の理解を深めることができる。</p> <p>⑥元寇の内容・結果を世界史の流れを通して、考察することができる。</p> <p>⑦元寇や分割相続による御家人の生活苦から、鎌倉幕府が滅亡する原因を考察することができる。</p> <p>⑧南北朝の内乱の中で、室町幕府が成立し、守護大名が成長することを通して、武家政治の特色を考察できる。</p> <p>⑨東アジア世界とのかかわりやその影響について考察できる。</p> <p>⑩農民たちが、地頭や荘園領主に抵抗するようになったことを考察できる。</p> <p>⑪生産性の向上による経済活動を支える仕事や仕組みが整えられていくことを考察できる。</p>	<p>④鎌倉文化の特色を、東大寺南大門などの文化財から読み取ることができる。</p> <p>⑥『蒙古襲来絵詞』などの絵画資料から、元寇の様子を読み取ることができる。</p>	<p>④社会の変化の中で新仏教が生まれたことについて理解する。</p> <p>⑤モンゴル帝国の成立とその拡大についての基本的な知識を身につける。</p> <p>⑥2度にわたる元寇と日本の対応を理解する。</p> <p>⑦建武の新政について、基本的な知識を身につける。</p> <p>⑧室町幕府の成立により武士の支配が、再び全国に広まったことを理解する。</p> <p>⑨明・朝鮮・琉球王国の成立といった東アジア世界の様相を理解する。</p> <p>⑩応仁の乱から、戦国大名が生まれたことを理解する。戦国大名の領国支配の仕組みを理解する。</p> <p>⑪農業や手工業の発達により、人々の生活が向上したことを理解する。</p> <p>⑫農業の発達によって、商業活動が活発化しことを理解する。</p>
--	---	---	--	--

		⑬ 諸産業の発達による生活力の向上と、農村で自治的な組織が作られることの関連を考察できる。	⑬ 『政基公旅引付』から村の生活を読み取り、表現できる。  ⑭ 室町文化の特色を、様々な文化財から読み取ることができる。	⑬ 農村で自治的な組織が作られるようになったことを理解する。  ⑭ 武家政治の展開や民衆の成長を背景にした社会や文化が生まれたことを理解する。
--	--	---	--	---

#### 4 指導観

##### (1) 単元観

本単元は、新学習指導要領の「2 内容 (3)中世の日本」に相当する「イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる」単元である。

本校で使用している教科書では、「政治・外交面」と「社会・文化面」が混在した編成であるが、諸産業の発達から、都市や農村における自治的な仕組みが成立したことを気付きやすくするため、「農村のくらしと人びとの団結」の項目を本単元で学習する。

##### (2) 生徒観

明るく活動的な生徒が多い。学習面では、積極的に授業に取り組み、基礎・基本を身につけている生徒は少なく、集中力、忘れ物、家庭学習の定着などに課題が残る生徒も多い。定期考査への取り組みなど学習に取り組んでいる生徒と、始めからあきらめて学習しない生徒の差が大きいのが現状である。そのため、授業のまとめを質問形式で行い、次時にその質問をもとにした小テストを行うことで復習の機会をつくり、基礎・基本の定着を図っている。

##### (3) 教材観

生徒自ら資料を読み、歴史的事象を読み取ることで、歴史への関心を高める。また、惣村の仕組みが、教科書で説明されている惣村の仕組みと同じことから、歴史学とは史資料に基づいて研究されたものだと感じさせたい。さらに、資料から農村の自治の実態を明らかにすることにより、歴史的事象を公正に判断する能力を育みたい。

なお、資料①②の『政基公旅引付』は、中世公家日記研究会編『政基公旅引付』本文篇・研究抄録篇・索引篇（和泉書院 1996年）、泉佐野市史編さん委員会編『新修泉佐野市史』第5巻 資料編中世Ⅱ（泉佐野市 2001年）より、該当箇所を授業者が抄訳したものである。

#### 5 年間指導計画における位置づけ

3年間の年間指導計画は、新学習指導要領の移行期間として、第1学年と第2学年で地理的分野と歴史的分野の学習を並行（地理・歴史を交互に行う）して行い、第3学年で最初に歴史的分野の学習を行い、それが終了してから公民的分野の学習を行う。新学習指導要領の「内容 (3)中世の日本」について14時間かけて学習するが、本単元はその第11時から第14時である。

6 大項目の指導計画（全14時間扱い）

項目	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価規準
第1時 古代のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代の政治・社会・文化・外交などに注目して、時代の特色をまとめ、考察する。</li> <li>古代から中世への変化をとらえようとする。</li> </ul>	イ①、ウ①
第2時 鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>将軍と御家人との主従関係、幕府と朝廷の関係などに注目して、武家政治の特色を考察する。</li> </ul>	ア②、イ②
第3時 承久の乱と執権政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>幕府と朝廷の関係から、承久の乱の原因と結果を理解し、その後の幕府の支配の拡大を考察する。</li> <li>北条氏による執権政治という形で、武士の支配が発展したことを理解する。</li> </ul>	イ③、エ③
第4時 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉時代の文化が、武士の気風を反映して素朴で力強いものだったことを考察する。</li> <li>人々の救いの求めに応じて新仏教が生まれたことを理解する。</li> </ul>	ウ④、エ④
第5時 13世紀の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパの封建制度を通して、武家政権の支配の理解を深める。</li> <li>ユーラシア大陸でのモンゴル帝国の成立と、その後の東西交流について理解する。</li> </ul>	イ⑤、エ⑤
第6時 元寇	<ul style="list-style-type: none"> <li>2度にわたる元寇と日本の対応を理解する。</li> <li>元寇の原因・結果を世界史の流れを通して、考察する。</li> </ul>	ア⑥、イ⑥、ウ⑥、エ⑥
第7時 鎌倉幕府の滅亡と 建武の新政	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や社会の変化から考察する。</li> <li>建武の新政について、理解する。</li> </ul>	ア⑦、イ⑦、エ⑦
第8時 南北朝の内乱と 室町幕府	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北朝の内乱の中で、室町幕府が成立するという動きや守護が国人を被官化するなど領国を支配する守護大名に成長することを通して、武家政治の特色を考察する。</li> <li>室町幕府の成立により、武士の支配が再び全国に広まったことを理解する。</li> </ul>	イ⑧、エ⑧
第9時 東アジア世界との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>明・朝鮮・琉球王国の成立といった東アジア世界の様相を理解する。</li> <li>勘合貿易、朝鮮との関係、琉球の国際的な役割など、東アジア世界とのかかわりや、それが国内に及ぼした影響について考察する。</li> </ul>	ア⑨、イ⑨、エ⑨
第10時 下剋上と 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> <li>応仁の乱の原因に気づかせ、乱を通して将軍や幕府の力が衰え、実力主義の社会へ変化していった様子や、下剋上の風潮が広がる中で、各地に戦国大名が生まれたことを理解する。</li> <li>戦国大名の領国支配の仕組みを理解する。</li> </ul>	エ⑩
第11時 農業技術の進歩と 商工業のおこり	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術面の進歩によって、農業や手工業が著しく発達し、それに伴って人々の生活が向上したことを理解する。</li> <li>農民たちが生産性を高めて地頭や荘園領主に抵抗するようになったことを考察する。</li> </ul>	イ⑪、エ⑪

第12時 商工業の発展と 都市の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の発達によって、商業活動が盛んになり、商品流通が活発化したことを理解する。</li> <li>・経済活動が活発化することにより、経済活動を支える仕事やしくみが整えられていくようになったことに気づく。</li> </ul>	イ⑫、エ⑫
第13時（本時） 村の自治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸産業の発達による生活力の向上にもなって、農村で自治的な組織が作られるようになったことを理解する。</li> <li>・村の生活の資料を活用し、農民の自治の実態を追求する。</li> </ul>	イ⑬、ウ⑬、エ⑬
第14時 武士や民衆の文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。</li> <li>・この時代の文化がどのように広がっていったのかを理解する。</li> <li>・この時代の文化の中に、現在に結びつくものがみられることに気づく。</li> </ul>	ウ⑭、エ⑭

## 7 指導にあたって

生徒には、知識の暗記のみの学習に思われがちな歴史学習だが、史料を5W1Hでまとめることで、具体的な民衆の活動を感じさせる。過去の実践では、自分自身で資料を読み、歴史的事実を読み取る活動なので、普段は歴史を苦手とする生徒も積極的に参加していた。また、講義型の授業や、一斉型の授業にならないようにグループによる話し合いを取り入れ、「教えあい」「発表しあう」活動を確保する。

## 8 本時

### (1) 本時のねらい

- ◆諸産業の発達による生活力の向上にもなって、農村で自治的な組織が作られるようになったことを理解する。
- ◆村の生活の資料を活用し、農村の自治の実態を追究する。

### (2) 本時の展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準〔評価方法〕
導入 10分	◆前時までの学習の復習小テスト	◆前時までの歴史の流れ、重要語句を確認する。	
	◆前時の阿弋河荘における抵抗を復習する。	◆前時の農民の生活向上と関連付けられるように配慮する。	◆農民の抵抗を読み取ることができたか。(発表)
展開 30分	◆村掟、自検断について、史料①から読み取る(個人)	◆史料を読み取るのに苦勞する生徒については、机間指導を行い支援する。	◆農村の自治における自検断について読み取り、表現することができたか。(ワークシート記入)
	◆民衆が、守護の勢力を撃退できる勢力に成長したことを、史料②から読み取る(個人)		◆守護の勢力を撃退できる農村の成長を読み取り、表現することができたか。(ワークシート記入)
	◆自分で読み取った内容について、グループで確認しあう(グループ)	◆グループ内で教え合うことができるように、机間指導を行い支援する。	◆グループで話し合い、意見をまとめることができたか。(観察)

まとめ 10分	◆惣村について、まとめる。	◆生徒が読み取った資料の内容に即しながら、まとめていく。  ◆重要事項を確認し、次時の復習小テストにつなげる。	◆資料を読み取ったことをまとめることができたか（観察・発言）  ◆農村の自治の仕組みなどを理解しているか。（発言）
------------	---------------	---	---

(3) 授業観察の視点

◆グループ学習の形態・活動について

- ・グループ学習の流れを理解させることができたか。
- ・グループ内での話し合いを支援することができたか。
- ・グループの発表を順序立てて行わせることができたか。